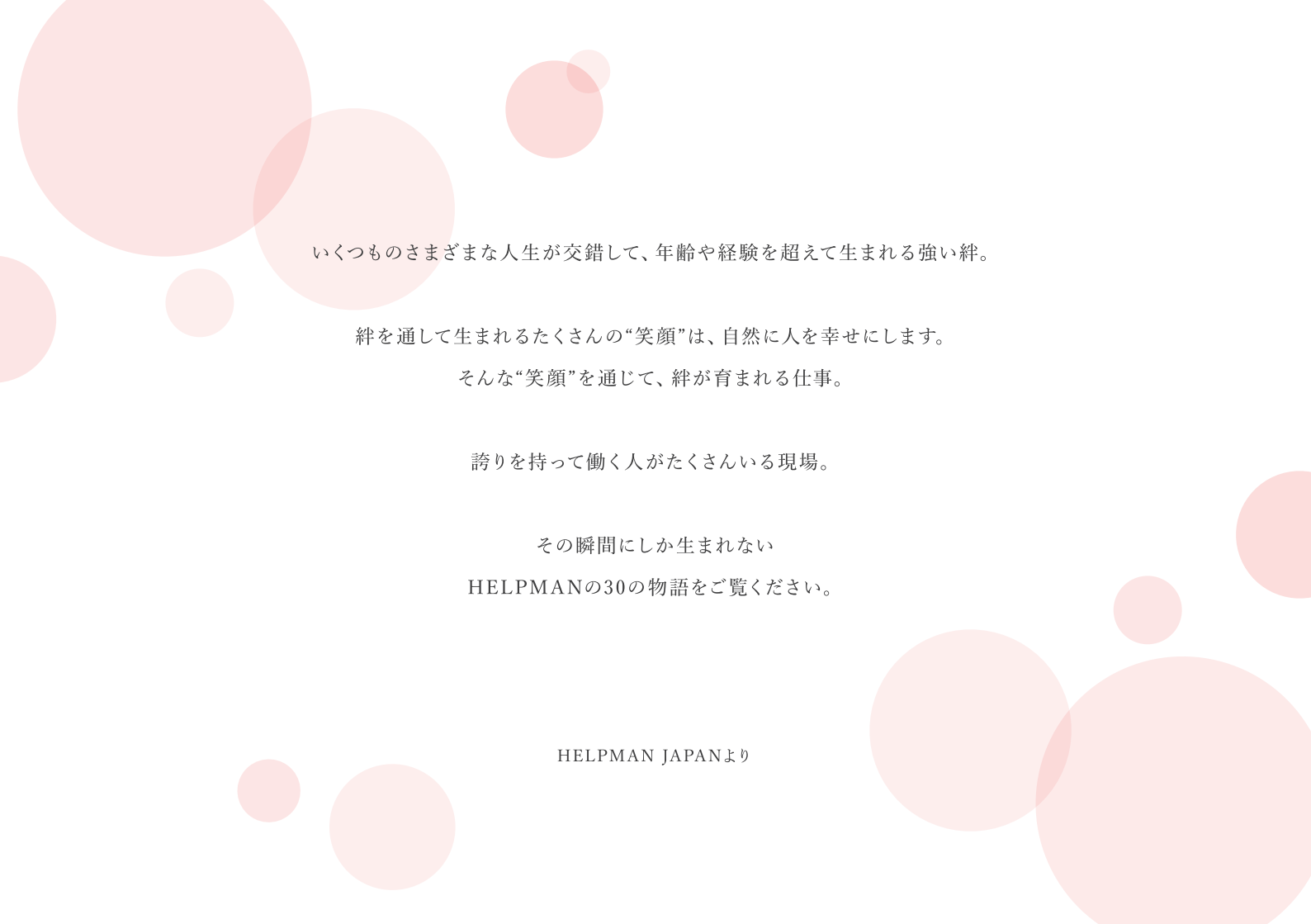


HELPMANの 30の物語 ～絆×笑顔～





いくつものさまざまな人生が交錯して、年齢や経験を超えて生まれる強い絆。

絆を通して生まれるたくさんの“笑顔”は、自然に人を幸せにします。

そんな“笑顔”を通じて、絆が育まれる仕事。

誇りを持って働く人がたくさんいる現場。

その瞬間にしか生まれない

HELPMANの30の物語をご覧ください。

HELPMAN JAPANより

笑いのある生活を
取り戻したい。
笑顔の連鎖が何よりの喜び。

「いままでのように家族一緒に笑いながら過ごしたい」という今本さんの願いに、寄り添い続けた裕貴さん。その結果、2カ月後には食事が食べられるようになり、会話もできるまでに回復した。失われていた表情がつそのように、声を出して笑うようになるという、状態改善を実現した。いまでは心身共に自立に向かい、「家族一緒に笑いある生活を満喫されている。介護とは本人の支援だけではなく、家族をも笑顔にする。つられて職員も笑顔になる。そんな笑顔の連鎖が、裕貴さんの目指す介護のかたちだ。

社会福祉法人八千代美香会 小規模多機能ホーム アゼリアガーデン

●ご利用者：今本 重昭さん(左) ●職員：吉田 裕貴さん(右)

きっかけは経済連携プログラム。
介護を通じて、人を気遣うこと、
やさしさの大切さを学ぶ。



幼い頃から憧れていた日本へ！きっかけはインドネシアと日本の経済連携プログラム。介護の仕事始める前は介護の仕事は想像のつかない仕事であり、とても不安だったと話すアプリヒダヤトさん。そんな不安な気持ちを抱えいたときに出会ったのが藤井さんだ。自身にも不調があるにもかかわらず、「風邪をひかないようにね」と周囲を気遣う。事あるごとに、「ありがとう」と声も掛けてくれる。そんな姿に、本当なご自分が「ありがとう」と言いたい。いつも自分の方が学び、元気をもらっている。

社会福祉法人千葉県福祉援護会 特別養護老人ホーム ローゼンヴィラ藤原

●ご入居者：藤井 操さん(右) ●職員：アプリヒダヤトさん(左)

当時の習慣はいまでも、
日常の習慣から、
ふと気付かされる瞬間。

「もうこんな時間だ、帰って職人たちにご飯を作らないと。時々、決まった時間になると猪口さんはそう口を開く。長年、多くの職人たちの世話をしながら「母ちゃん」と呼ばれ親しまれてきた。当時の習慣はいまでも猪口さんの中に生き続けている。ふとわれに返ると「何だかおかしいね。あなたには悪いことしたね」と、照れくさうに笑う。猪口さんの面倒見のよい人柄と人間性が垣間見える。人生の先輩から学ぶことは多く、気付きを与えてくれると努さんは語る。いつも人を想うやさしい猪口さんが努さんは大好きだ。

社会福祉法人キングス・ガーデン東京 特別養護老人ホーム 練馬キングス・ガーデン

●ご入居者：猪口 ヤエノさん（左） ●職 員：牛田 努さん（右）

きっかけは
ランチタイムのBGM。
懐かしい名曲が、会話を紡ぐ。



昼食時、聞き覚えのある音楽が耳に入ってきた。懐かしい音楽に引き寄せられるように、昔の主である大澤さんの元へ。これをきっかけに話す機会が増えたというおふたり。ホームができて間もないころからいる大澤さんからは、音楽のことだけでなく、ホームのことをいろいろ教えてもらっているという。そんな由貴さんが大切にしていることは、仕事と2児の母親としての家庭との両立。多くの人に支えられて成り立っている。支えてくれる方との絆を大切にしたい。それが由貴さんの日々の原動力となっている。

三菱電機ライフサービス株式会社 大島ケアハートガーデン

●ご入居者：大澤 敏夫さん（左） ●職員：加勢 由貴さん（右）



いまでも大切にしている考えは、
あのときのひと言から
始まった。

「笑顔は信頼関係を築く上での一番のコミュニケーション。相手に心を開いてもらうためには、自分自身が笑顔でいることが大切。」
人懐っこい笑顔を向け、健治さんはそう話す。働き始めた当初は、
「ついついのケアに時間がかかり、思うようにできない。自分の力の
なさに落ち込んだ。『なんでそんな暗い顔をしているの？』笑った
方がいいわよ、その方が好きよ。笑顔と余裕を失っていた健治さ
んの心に、言葉が強く響いた。その日以来、何よりも笑顔を大切に
している。」

社会福祉法人賛育会 第二清風園

●ご入居者：海老原 光子さん（左） ●職員：奈良 健治さん（右）

「おもてなしの介護」を実践。
できることが、
自信につながる。



株式会社ハーフ・センチュリー・モア サンシティ銀座EAST

●ご利用者：鈴木 和男さん（左） 阿や子さん（右） ●職員：関間 ひとみさん（中央）

サンシティではご利用者様へのおもてなしの介護を実践している。
あるとき、鈴木さんの主人から「老舗洋食店でカレーを食べその後
ドライブをしたい」と相談を受けたひとみさん。ご主人と共に面を進
め、1カ月の準備期間を経て実現。「夫妻はとても喜ばれ、ホームに戻
られてからもうれしそうにこのときの体験をお話されていた」。病氣
やケガは癒やせても、人それぞれが抱える不安や悩みを、寄り添
うことで少しでも軽減されたらいいとひとみさんは思う。「利用者様が少
なくても、その人一人を地やして、自信を持っていられることがやりがいだ」。

心からの笑顔が見たい。
笑いの多い日々が
喜びにつながる。

今年の夏、庭にゴーヤを植え、緑のカーテンを作った。施設では初めての試みだったが、「あら！ 大きくなつたね」と普段物静かな小林さんがキラキラした笑みを浮かべて収穫を楽しんでくれた。心から楽しむ姿がうれしかった。「心からの笑顔に出合い、ご家族と共に笑顔になつてくれたときに、とてもやりがいを感じる」と桃子さんは言う。毎日笑っていてほしい。笑いの多い日々が多ければ多いほどに、その人らしい毎日が過ごせる。今日もふくろうの家は、大きな笑い声とたくさん笑顔に包まれている。

株式会社プレジャーコム ふくろうの家 中野もみじ山

●ご利用者：小林 恭子さん(左) ●職員：柏崎 桃子さん(右)

一人ひとりに 本当に合った支援。 時には愛犬も一緒に。

徐々に関節が動かなくなっていく病を患う榎原さん。手足を伸ばすのは難しく、リハビリをするのにも痛みが伴う。つらいリハビリの中でも、榎原さんが喜んで取り組むものがある。それは、愛犬のナナちゃんを車いすに乗せて、自分が押すというリハビリだ。つらいはずなのに、ナナちゃんが顔を寄せてくると、声を上げてはほほ笑む。そんな姿を見ながら、共に日々を過ごす恵子さんは想いを強くする。「入居者様一人ひとりを深く理解し、その方に合った、その方らしい生活が送れるように支援したい」と。



社会福祉法人心の会 さくらの里山科

●ご入居者：榎原 桂子さん（右） ご入居者愛犬：ナナちゃん ●職員：出田 恵子さん（左）



ＱＯＬ（生活の質）向上を
掲げ、全力サポート。
笑顔につながる自立支援を。

「人生の先輩が老後も楽しく笑顔でお過ごしいただけるように支援し、そこに自分が関わっていることがとてもうれしんですよ」と話す清水さん。目標を持ち懸命にリハビリを続ける宮澤さんの姿は、新人職員であった清水さんの大きな励みになった。言葉ではなくても、まひ側の手で爪切りができたときには、皆で涙を流して喜んだ。「スタッフが喜んでくれることで、さうにがんばれる」と話す謙虚な姿勢に、宮澤さんの人柄がにじみ出る。いまでは家事もこなし、旅行にも出かけるまでに。次の目標を目指し、今日もふたりの掛け声と笑い声が響き渡る。

社会福祉法人一燈会 短時間型デイサービス ザ・中井プライムリハビリSPA

●ご利用者：宮澤 たか子さん（右） ●職員：清水 智子さん（左）

自分がいないと困る。
それを教えてくれた
人がいた。



大学卒業後就職した当初は相談員を志望していたという真悟さん。高齢者の方と触れ合う中で、現場の面白さを知り、介護職員としての道を歩み出した。初めから全てがうまくいったわけではない。悩み、落ち込むこともあった。そんなときに励ましてくれたのが米崎さんだ。「あなたが元気ないと、私たちは困っちゃうわよ。元気出しなさい」と、背中をバシッと気合一発。あまりの気合に、周囲からは大きな笑いが起きるほど。自分がいないと困る人がいる。真悟さんが自らの存在価値を実感できたのはその瞬間だった。

社会福祉法人喜清会 スマイルホーム西井堀

●入居者：米崎 一女さん（左） ●職員：伊東 真悟さん（右）

想いは新たなステージへ。
もっと、笑顔の輪を
広げていきたい。

「これまでハビリ運動を始めるようになってから、夜ぐすりと眠れるようになった。河口さんが声を上げるし、次々と「私も」と賛同そんな姿を見た江草さんも自然にうれしくなり、一緒に笑い合う。フットの野球選手だった江草さん。実は、現役時代から介護の勉強をしていた。現役時代に高齢者施設を訪れた際、大いに歓迎されたことが介護に興味を持つきっかけとなった。河口さんたちの喜ぶ姿を目にするたび、「もっと多くの笑顔に出会いたい、多くの人を笑顔にしたい」という想いは強くなる。

株式会社キアン レコードブック広島住吉町

●ご利用者：河口 宏一郎さん（右） ●職 員：江草 仁貴さん（左）

もう一度「自力で動きたい」。
そんな想いに寄り添い、
自立支援をサポート。

1年半ほど前に入所された中島さん。当初は自力で移動することができず、またできるようなりたいと、よくおっしゃっていた。そこで、もう一度できるようなるかを考え、自立支援のサポートを「一緒に自走式車いすの運転や立位の練習を繰り返し行い、いまでは短い距離であればご自身で移動できるように。最小限の介助でトイレへも行けるようになったときには、共に大喜び。深い信頼の絆が結ばれている、そんなおふたりだった。



社会福祉法人善光会 フロース東横谷

●ご利用者：中島 文子さん（右） ●職員：谷口 尚洋さん（左）

支えたり、支えられたり。
与え合う心遣いが
明日への活力に！

「ご飯食べたの？」「風邪ひいてない？」と何かと気に掛け、声を掛けてくれる貞さん。落ち込んでいるときも悩みを抱えているとき、何も言わなくても表情をくみとって「一番に気づいてくれる。人生の大先輩である貞さんに、私自身が支えてもらっていることがたくさんあるんです」と希生さんは言う。時には昔の恋のお話を聞きながら、恋愛相談に話が発展するなんともしばしば。笑顔と会話が尽きることはない。ふたりには共に楽しみにしている約束がある。それは、希生さんに将来子どもができたなら、貞さんに抱いてもらうことだ。

社会福祉法人小田原福祉会 潤生園ホームヘルプサービス

●ご利用者：鈴木 貞さん（左） ●職員：露木 希生さん（右）



社会福祉法人ケアネット おたきほうむ

●ご入居者：生田 正江さん(右) ●職員：川上 奈菜さん(左)

いつも笑顔で。
その先にはもっと多くの
笑顔が待っている。

幼いころ、曾祖母と話すことがとても好きだったと話す奈菜さん。自分との会話を楽しみにし、「話を聞いてくれてありがと」という曾祖母の言葉に、思わず笑顔になった。介護の道を目指したのも、曾祖母との楽しい思い出がきっかけだという。そんな奈菜さんが番大切にしていることは、いつでも笑顔で接すること。少しでも気持ちよく楽しく過ごしていただくためにも、いつも笑顔で仕事をしたいんです」と、奈菜さんは笑顔で語る。



何気ない日常から笑いは
降りてくる。それをきっかけに
生まれる心のゆとり。

働き始めたばかりのころは覚えることが多く、毎日必死に頑張っていた。忙しく働いていた直樹さんによつて余裕が生まれたのは、鈴木さんの入所2カ月目のころだ。トイレの介助が終わり、部屋のベッドに座ってもらおう。するとナースコールが鳴った。確認してみると、自分が一緒にいる鈴木さんの部屋からで、その後も定期的に鳴る。「なにかがおかしい」。理由は簡単、ボタンをベッドの中で踏んでいただけだった。思わず顔を見合わせたりで笑った。そして知った。日常のふとしたことで笑顔は生まれ、それをきっかけに心のゆとりが生まれると。

ヒューマンライフケア株式会社 ヒューマンライフケア浦和の樹

●ご入居者：鈴木 リエさん（左） ●職員：有山 直樹さん（右）

「この人がいるなら」 コミュニケーションが 強い絆を育む。



「ご入居者の介護を要する程度にかかわらず、」直接の会話が大事であり「コミュニケーションをとることも大切にしていきます」と剛さん。スタッフも含めて、自ら意識して積極的に会話をしに行く。井上さんに「ピッチテ往田南を」家族と共に薦めたときもそうだった。剛さんは施設の説明や考え、自分自身のことまで、つひと丁寧な説明を繰り返す。「この人がいるならそこに行くわ。その言葉を聞くことができたときに、やりがいと同時に責任感を強く覚えた。ふたりの交わす笑顔には、信頼をも超えた強い絆が見られた。

東京海上日動ベターライフサービス株式会社

ヒュッテ往田南

ヒルデモア世田谷岡本

●ご入居者：井上 浪江さん（左） ●職 員：岡田 剛さん（右） 事業所セラピー犬：モモちゃん（支配人）



「自分もこうなりたい」
相手を思い、どんなときも
笑顔を返せる自分に。

石田さんは大正生まれの元駅員さん。勝政さんの住む街の駅の駅員さんであったことから、あそこであれがあったよね。あといいいねと、いつも駅の話で盛り上がる。人生経験豊かな石田さんとの楽しい会話は、尽きることがない。入職した当初、拙い介護でこわばった表情の勝政さんにも、石田さんは嫌な顔ひとつせずに笑顔で接してくれた。その姿に気付かされ、「自分もこうなりたい」と勝政さんは強く思ったという。勝政さんの介護の道は平たんな道のりばかりではないが、強い心を持って車輪を回し続ける。

社会福祉法人かつみ会 特定施設エンゼルの丘

●ご利用者：石田 恵子次さん（右） ●職 員：高橋 勝政さん（左）

日常の何気ない風景。 温かな会話が 心をつつむ。



ある日、利保さんが通り掛かると、笑い声とともに楽しい会話が聞こえてきた。盛り上がる会話を耳を傾けてみると、「私たちは警察官なのよ。だから私も楽しいわ！」とに行きたいの。真つとくと思っただけで、分かります。楽しいとやりとりを繰り返す多々たり。でも、どこかかみ合わない会話。お互いが聞き上手だからこそ、相手の会話をそのまますぐと相づちを打つちに会話が弾む。その後も会話は尽きなくてなへつ、アツに笑い声が響き渡る。そんな口唇に響くすほししい。聞き上手はコミュニケーション上手。見聞きたいものだから、利保さんはいつも聴く。

社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜

●ご入居者：加藤 京子さん（右） ●職員：笠原 利保さん（左）

互いに想い合うふたり。 笑顔は、何よりもの パワーの源。

「佳乃子さんどうもすみませんね。佳乃子さんが入社してから、名前で呼んくれた」利用者様の第3号がキヨさんだった。その後も毎日写真を見せられたり、おしゃべりしたり、北海道旅行に出掛け、際にはフマに食われないでねと笑顔で冗談交じりに送り出し、旅行後は「毎日無事を折っていたんだよ」と涙ぐんで迎えてくれた。職員たちは、本物の祖母と孫のようだねとからかうほどだ。「生きている感覚を味わっていたくために、笑顔や言葉を引き出すことが大切」と言う佳乃子さん。「利用者様の笑顔は彼女にとって、何よりのパワーの源だ。」

社会福祉法人三育福祉会 特別養護老人ホーム シャローム

●ご利用者：遠藤 キヨさん（左） ●職員：蒲谷 佳乃子さん（右）

輝きが生まれる瞬間。
そんな瞬間に立ち会える
ことがやりがいい。

鈴木さんにとって、介護保険制度の施行が、介護について考えるきっかけとなった。当時、介護の話題を耳にすることが多く、自然と興味が湧いた。「介護という」と難しく感じる方もいるかと思いますが、その仕事はさまざまで、例えば話し相手になることも大切な仕事のひとつ。話をすることで口を動かすのも運動。食欲も出て、何より目に輝きが生まれるんです。鈴木さんは語る。皆さんのいきいきとした姿を見られるのが、鈴木さんの何よりのやりがいだ。



社会福祉法人奉優会 奉優デサービス池尻

●ご利用者：飯島 シゲさん (右) ●職員：鈴木 君枝さん (左)

言葉は魔法。
不意に掛けられたひとことで
自信と笑顔に！

「あんなよくできるようになったね。トイレ介助でスポンを引き上げているときに、山田さんに不意に掛けられたひと言葉。入職して半年、福祉の専門学校で介護福祉士資格を取得したものの、頭で学習したことが体を動かすことにつながらず、京さんは介護技術に大さな不安を抱えていた。何ができるようになっていない、実感のない日々の中であたらされたひと言葉。単なる言葉だけではなく、経過を見守ってくれていた」
「うれしさをわさり、少し自信が持てるように。このことが、次の歩を踏み出させてくれるきっかけになったと、京さんは笑顔で語ってくれた。

社会福祉法人尾道さつき会 地域密着型特別養護老人ホーム星の里

●ご利用者：山田 カナメさん(右) ●職 員：村上 京さん(左)

いくつになっても
チャレンジ！
パソコンだって、お手の物。



祥子さんは社内の「シニアカレッジ」という企画の中で、パソコン教室を担当していた。電源の入れ方やマウスの使い方からスタートし、つづけるまで丁寧にレクチャーを重ねる。鹿田さんも祥子さんからパソコンの使い方を学ぶひとりだ。「最初はあんなにできなかったのに、こんなにできるようになったわよ。いまでは「一人でリーダー」を養成できるまで。いくつになっても新しいことにチャレンジし、向上心を忘れない姿に、毎回感動せられると祥子さんは言っている。スマートフォンを使いこなせるようになることが、次の鹿田さんの目標だ。

日本ロングライフ株式会社 ロングライフ葛西

●お客様：鹿田 肇子さん（右） ●スタッフ：奥山 祥子さん（左）



株式会社シルバーウッド 銀木犀<鎌ヶ谷富岡>

●ご入居者：菊池 孝さん（右） 恵子さん（中央） ●職員：大住 明さん（左）

心に届く歌声。
与え合う想いが
胸に響く。

菊池さんご夫妻は、銀木犀に入居する仲のよいご夫婦。ある日、そんなご夫妻に呼ばれ、明さんが部屋を訪れるや、笑顔で待たわたりがいた。どこか様子がおかしいふたり。次の瞬間、菊池さんご夫妻が声高らかに体を揺らしながら歌い始めた。それは、誕生日を迎えた明さんの「パーシング」。思いがけないサプライズに驚きながらも、心のこもった素敵なプレゼントに涙が込み上げてきた。何よりこの日のために、明さんに気付かれないよう、こっそりと練習を重ねていたことがうれしかった。「この仕事に就くことができて本当によかった」



誇りをもって、自分の人生を
語れること。人生の先輩から
その大切さを学ぶ。

「おう、おはよう」。畠山さんは、いつも笑顔で貴さんに声を掛け、昔話を懐かしそうに語り聞かせてくれる。中でも貴さんが最も興味深く耳を傾けるのは、戦争経験者である畠山さんの戦時中の話だ。畠山さんは冗舌に、時には笑顔で、時には笑顔の奥に悲しげな表情をのぞかせながら、当時を語ってくれる。楽しいことばかりではないけれど、誇りを持って自分の人生を語ることもできる。そんな人生を歩んでいきたい」と、貴さんは言う。介護の仕事に誇りを持って取り組める環境を作っていく。それが貴さんの目標だ。

社会福祉法人安代会 りんどう苑

●利用者：畠山 亀五郎さん(右) ●職員：羽澤 貴さん(左)

限られた世界にとどまらない。
地域と共存し、
視野を最大限に。

何ができるかではなく、何がしたいのかをご利用者様と一緒に考える生活を共にし、誰よりも身近なところで寄り添っていくのが村松藍の介護スタイル。仙台七ヶまつりの日、1年に一度きりのお祭りで、と星さんにお声掛けし七夕見物へ。そこで、偶然にも長年疎遠だった方と再会することに。思いがけない出会いに、星さんは喜びをあふれさせ、連れてきてもらって本当に良かったと満面の笑顔を。施設内だけの世界にとどまらず、もともと一緒に地域とつながり、共存していけたらと語る村松さん。彼女の表情には、熱い思いが満ちあふれていた。

社会福祉法人ウエル千寿会 萩の風サテライト

●ご利用者：星 はるこさん(右) ●職員：村松 直美さん(左)



社会福祉法人しんまち元氣村 特別養護老人ホームさくら寮

●ご入居者：春日 鈴子さん（右） ●職 員：伊井 勇太さん（左）

「心の距離を縮めたい」

決して諦めない気持ちと

日々の積み重ねで、想いは伝わる。

「出ていけ」「知らない」。出会った当初は介助も抱まれ、日々そんな会話がなされていた。しかし、勇太さんは悔しさを内に秘めながらも「心の距離を縮めたい」と決して諦めることはしなかった。まず始めたのは、簡単なあいさつと自己紹介。無反応でも構わなかった。毎日、会うたびに同じことを繰り返す。何度行ったらかからないくらいいるとき、ようやく初めての返答。いまでは事あるごとに、「伊井くん、伊井くん」と呼びかけてくれるように。笑顔の春日さんの声を聞きたげに、伊井さんの胸には喜びが染み渡る。

一つひとつの積み重ねが、
自信となり、やりがいが
生まれる。

普段から物静かで寡黙な森下さん。伽奈さんが毎日さまざまな声掛けをするも、なかなか会話につながらない。そんなある日、「私の名前覚えていますか？」と聞くと、「覚えてるよ、カナちゃんでしょ。いつも元気だね」という返答が。名前だけではなく、実は普段の働く伽奈さんの姿も見てくれていた。毎日諦めずに話し掛けてよかったと思つた瞬間だった。いまだではふたりは笑顔であいさう。楽しい会話が止まらない。

社会福祉法人 秀峰会 さくら苑

●ご利用者：森下 秋雄さん（左） ●職員：鈴木 伽奈さん（右）

できないことだけを
お手伝い。その人らしい
生活を送れるように。

「私たちケアスタッフは、その人らしい生活を送っていただくための
「補佐役」だと思っています」と語る浩一郎さん。できることは本人に
お任せし、できないことだけをお手伝いする。浩一郎さんが仕事を
する上で最も大切にしていることだ。「若いのに頼もしいわね」あな
たがいてくれてよかった。そんな言葉に思わず「フムリ。ありがとう
」と言ってくれる人や喜んでくれる人がいる。そのたびに実感するこ
の仕事を選んでよかったと。

株式会社ケア21 プレザングラン 大田多摩川

●ご利用者：鈴木 澄子さん（右） ●職 員：矢富 浩一郎さん（左）

相手のことを第一に考える。
それが安心と笑顔に
つながる。

「大切にしていることは、常に明るく笑顔で、ご入居者様と向き合うことと話す康佑さん。ある夜、「補聴器がないのと田中さんから遠慮がちに声を掛けられた。補聴器は、日常生活に欠かせないものであり、必要不可欠なもの。仕方がないとおつしやいつつも、表情からは反するものがうかがえ、康佑さんは必死で夜通し探した。忙しいのには本音がありがたうね」。補聴器が見つかった後の安心した笑顔は忘れられない。どんなときでも、自分自身のことだけでなく周りのことを考える。それが康佑さんのモットーだ。

株式会社かいごデザイン 有料老人ホーム ハッピーニューライフ東船橋

●ご入居者：田中 はつ江さん(右) ●職員：秋田 康佑さん(左)

志と強い信念を持って。
新たなフィールドで
輝き続ける。



プロのサッカー選手を目指しつつも、志半ばでがにより夢を諦めざるを得なくなりました智里さん。その後、「スポリ」選手を支える側に回りたくい柔軟な回復師に。そこへ障がいや痛みを抱える多くの高齢者と出会った。自分らしい生活を取り戻し、生活の質を向上させてあげたいと、強い思いを抱くようになり介護の道に。高齢者を寝たきりにさせないという会社のスローガンのもと、その志を持ち続けていまの私があると智里さん。いまではサッカー競技場からさらに大きなフィールドに場所を移し、戦い続けている。

株式会社介護NEXT GENKI NEXT 京都吉祥院

●ご入居者：非公開（左） ●職員：別所 智里さん（右）

HELPMAN JAPAN OFFICIAL SITE

介護業界で働く人・働きたい人、介護業界に興味がある人向けの情報サイト『HELPMAN JAPAN (ヘルプマンジャパン)』!!



ヘルプマンジャパン

検索

<https://helpmanjapan.com/>



最新トレンド

介護業界は成長著しい業界で、日に日に進歩しています。その中でも注目すべき事例を取材し、最新トレンド情報を発信します。

ヘルプマン

いま、介護の現場ではどのようなことが起きているのか。現場で働く方へのインタビューを通じて、介護の現実と彼らの描く理想の姿を公開します。

介護の現場から

介護をする人・される人の間に生まれる強い絆。そんな絆で結ばれた「ふたり」を笑顔の写真と共に紹介します。

介護業界人事部

全国の介護事業者の人材にまつわるさまざまな事例を独自取材! 介護業界の人事の皆さまにとって役に立つ記事を発信します。

HELPMAN JAPAN

HELPMANの30の物語 ~絆 × 笑顔~

2019年3月発行

STAFF

発行人

小林 大三

編集人

坂田 祐一 繁内 優志

フォトグラファー

株式会社東京フォト工芸 刑部 友康 出合 浩介 平山 諭

ライター

株式会社 i-dear

デザイナー・印刷

株式会社ノスメディア

発行

株式会社リクルート

〒100-6640 東京都千代田区丸の内 1-9-2 グラントウキョウサウスタワー

表紙

社会福祉法人 秀峰会 さくら苑 / 森下 秋雄さん × 鈴木 伽奈さん

© 株式会社リクルート

本誌記載の記事・写真の無断転載・複製を禁じます。

本誌掲載の内容は、特に記載のない場合、2019年1月末時点のものです。以降、変更されることもありますのでご了承ください。

HELPMANの 30の物語 ～絆×笑顔～

